

中期を見据えた仮設住宅団地の提案

阪神・淡路大震災や被災地派遣業務での経験を踏まえ、仮設住宅団地の建設・運営に際しての提案を行う。

今後の仮設住宅団地の建設・運営にあたっては、東日本大震災における次のような特徴に留意する必要がある。

- ① 特に津波災害によって被災エリアが広範囲で被害も甚大なことから、住宅復興に長期間を要し、郊外や高台に多くの仮設住宅が建設されると予測されること。
- ② 阪神・淡路地域とは異なり、農漁業をはじめとする一次産業を中心としている地域であり、農漁業に配慮する必要があること。
- ③ 高齢化の進展に加えて、三世帯同居の居住形態（同居率 被災3県：12.3%、全国 6.7%）にも対応した整備が必要であること。

1 課題

(1) 入居者の心身の健康と地域コミュニティへの配慮

入居者の心身の健康保持は難しく、“閉じこもり”や“独居死”などが問題となった。被災者、特に高齢者が生活の復興への意欲を保ち、高めるためには、被災前の人間関係を維持できるよう、地域コミュニティに配慮して仮設住宅を提供する必要がある。

(2) 高齢者・障害者等への配慮

身体的、精神的に虚弱な状態にある高齢者や障害者のためには、早期にケア付き地域型仮設住宅を提供する必要がある。生活支援を行う L S A（生活援助員）の派遣、介護員や看護師によるケアは、入居者の安心感につながることになる。

(3) 多様な主体による生活支援

仮設住宅入居者の生活支援には、行政だけでなく、N P O、ボランティアなど多様な主体が取り組むことが重要である。

また、仮設住宅に設置される集会所「ふれあいセンター」は、人々の交流拠点として大いに役立つものである。

(4) 長期生活拠点としての居住環境と生活利便の向上

設計において、ひさし、手すり、スロープが標準化されたほか、積雪対応構造といった地域特性に応じた改善もなされている。今後も、災害救助法のさらなる弾力的運用により、菜園、駐車場整備、仮設店舗、保育所及びデイサービスなど幼児・高齢者の一時預かりが可能な複合施設など居住環境と生活利便の向上が必要である。

2 提案

前記の仮設住宅団地の建設・運営上の課題を踏まえ、中期（概ね5年程度）を見据えた仮設住宅団地の計画について提案する。

基本的な考え方

- | |
|--------------------------|
| 1 被災者への支援活動が円滑に進む拠点機能の配置 |
| 2 生活拠点としての居住環境と利便性の向上 |
| 3 被災者の復興意欲を支える応急仮設住宅の運営 |

<地域再生に向けた仮設住宅団地の提案>

コミュニティに配慮した集落ごとの集団入居を行うとともに三世代同居世帯に配慮した入居募集を行い、敷地内には園芸療法と生きがいづくりのため菜園整備するほか隣接農地などの活用も図る。

また、ふれあいセンターにおける見守り活動等の実施や保育所、デイサービスセンター等を併設するとともに、仮設店舗や巡回販売、農漁業等への就労を支援する。

(例示)

- ・ 仮設住宅の型別供給（1DK：2DK：3K＝1：3：1）に加え、三世代同居等の家族構成を配慮した型別住宅の提供
- ・ 子どもから老人まで交流の場となるグラウンド（イベント広場）、ふれあいセンターの設置
- ・ NPOや社会福祉法人によるデイサービスセンターや託児所、「まちの保健室」をふれあいセンターに開設
- ・ コミュニティ（50～70戸）単位ごとの地域型仮設住宅および談話室の併設
- ・ 隣棟間隔に余裕を持たせた菜園整備
- ・ 活動広場と除雪置き場を兼用した駐車場の配置
- ・ 農業漁業に必要な機械器具の保管場所の確保
- ・ 近接する複数の小規模仮設団地の居住者にも対応できる仮設店舗の設置

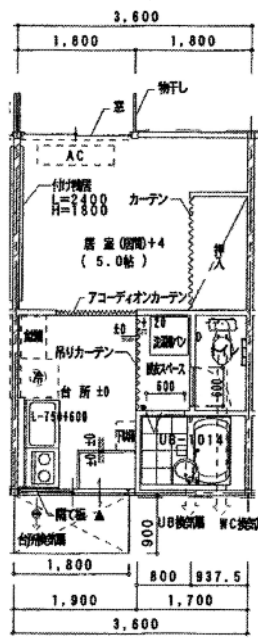
これらの内容を、50～70戸単位で整備するなど、敷地の規模・形状や入居者の状況に応じた多様な組み合わせを行うことが可能

(問い合わせ先)

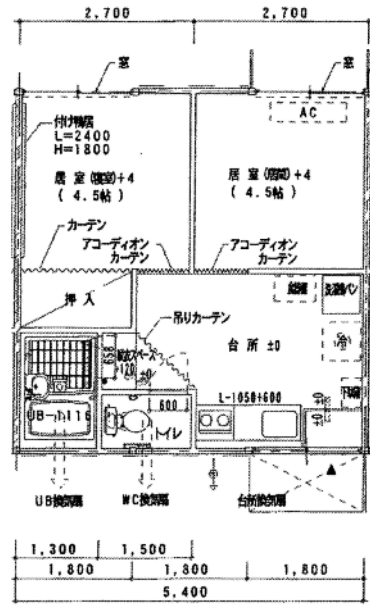
兵庫県県土整備部住宅建築局公営住宅課 TEL：078-230-8454（直通）

中期を見据えた仮設住宅団地モデルプラン

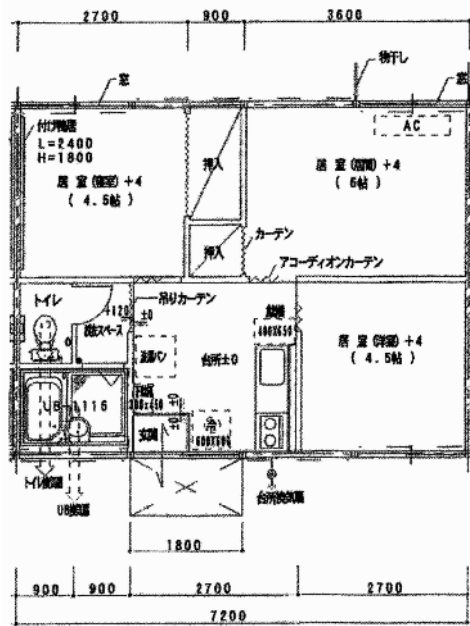
(50~70戸単位で整備するなど、敷地の規模・形状や入居者の状況に応じた多様な組み合わせを行うことが可能)



一般仮設住宅
1DKタイプ



一般仮設住宅
2DKタイプ



一般仮設住宅
3Kタイプ



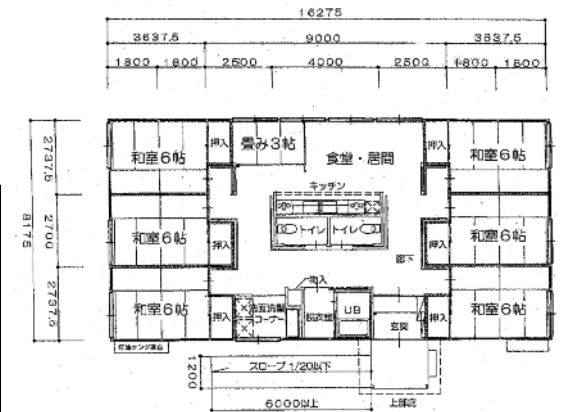
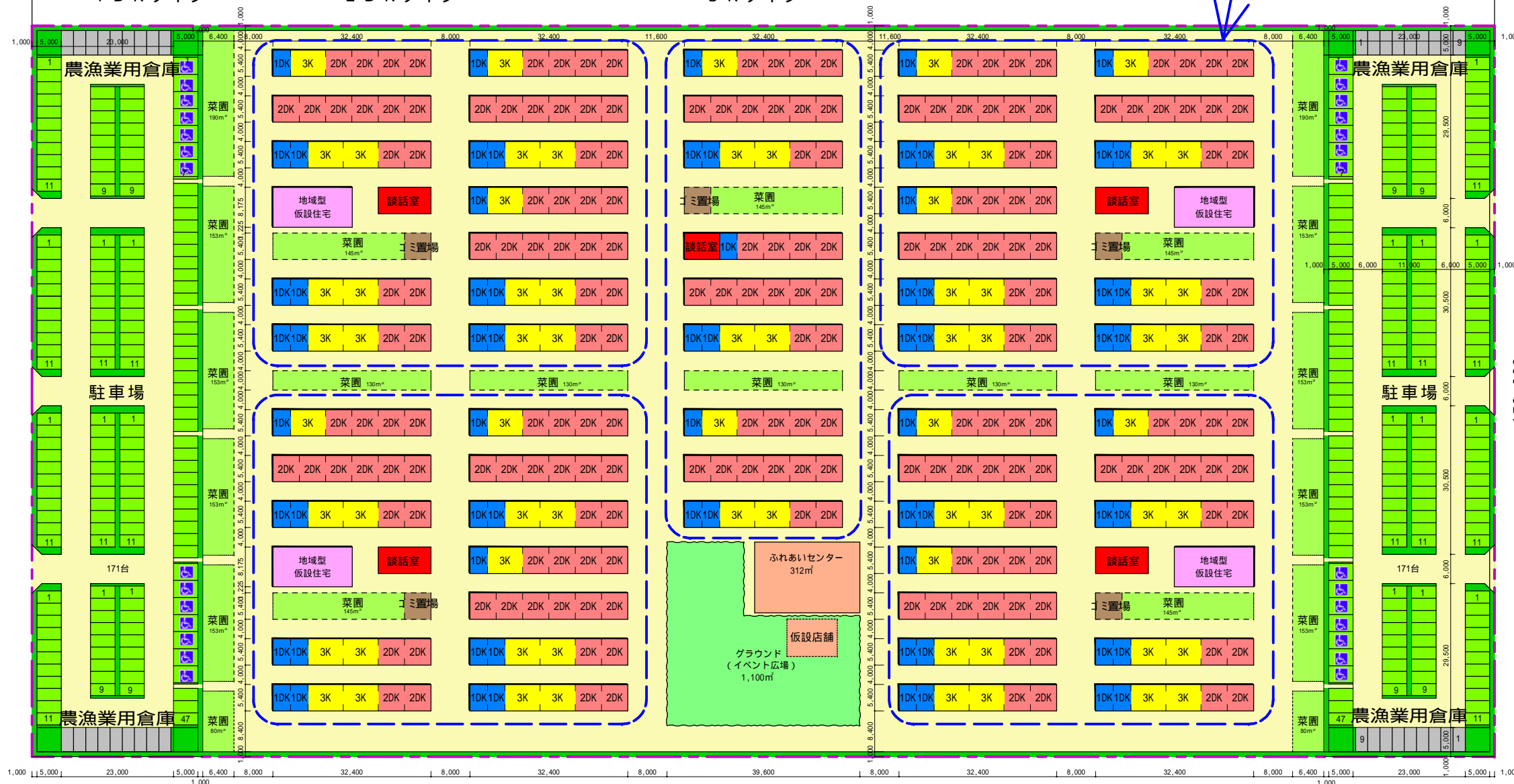
一般仮設住宅 (イメージ)



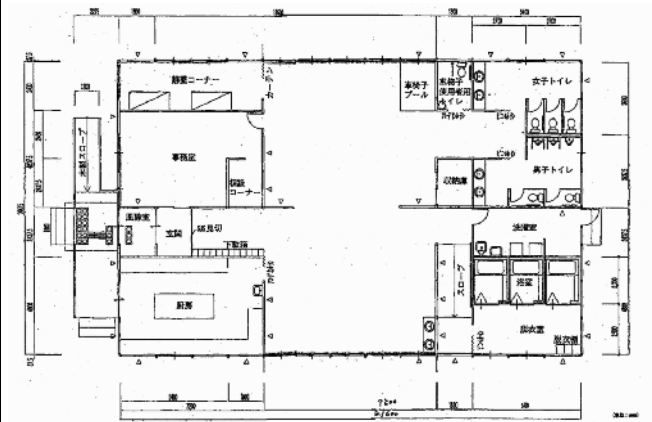
地域型仮設住宅 (イメージ)



仮設店舗 (イメージ)



地域型仮設住宅
(グループホーム)



ふれあいセンター

敷地面積 45,000㎡ (150m × 300m)
 応急仮設住戸 341戸
 (タイプ別 1DK 69戸 2DK 204戸 3K 68戸)
 地域型仮設住宅 4棟 × 6室/棟
 ふれあいセンター 312㎡
 談話室 1室 × 3Kタイプ + 4室 × 2Kタイプ2連
 駐車場 342台 (100%) (内 車いす用28台)
 グラウンド (イベント広場) 1,100㎡
 菜園 22ヶ処 3,100㎡
 農漁業用倉庫 36台
 コミ置場 5箇所